

案件名	かすみがうら市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)及び再生可能エネルギービジョン(案)	
募集期間	令和6年3月1日～令和6年3月14日	
意見受付件数	1件4項目【持参0件、郵送0件、FAX0件、電子申請1件】	
担当課	環境保全課	
No.	意見の要旨	市の考え方
1	<p>【総論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地に太陽光発電が作られ進行しているように見えるが、太陽光周辺の温度は上昇している。 ・教育、体制づくり、ゼロカーボンシティを担う人材は育っているのか。 ・脱炭素に関する意識掲揚が見えてこない。 ・市民・事業者が連携しての取り組みは。 ・近隣市町村との連携はしているか。 	<p>本市では再生可能エネルギーにおける太陽光発電のポテンシャルが大きく、今後は自然環境の保全等と両立した導入を進めていく必要があります。環境保全を優先するエリアと導入が可能なエリアを明確に区分するゾーニングについても研究してまいります。(本編p66)</p> <p>また、令和5年度から市内のバイオマスに関連する事業者等で構成するバイオマスミーティングを立ち上げ、事業者間や官民連携にて環境問題及び新エネルギーについて研究しており、今後も取組推進に向けた協議体の設立も検討してまいります。(本編p73、74)</p>
2	<p>【自然環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な森林整備はどこをどうしているか広報してほしい。(再利用雑木林の整備、落ち葉などの納涼利用等) ・市内に多い竹林の竹の再利用(バイオ炭の農業利用等) ・再エネ導入に対し保全されていないような気がする。 ・水辺環境や生物多様性が保全されていない(有機農業などの推進など水害に対しての水田ダム等を計画していない) 	<p>・本市の林地・森林においては、現時点で間伐等の人為的な施策が実施されていないことから、今後、森林組合と連携した森林施策を推進してまいります。(本編p65)</p> <p>また、広報の手法については、今後、検討してまいります。</p> <p>なお、現在、林道上佐谷・青木葉線支障木等伐採業務を実施しているところですが、薪やガーデニング資材等として再利用ができるよう、伐採木の無償提供を行っております。バイオ炭のご提案につきましては、「基本目標4の施策方針 森林・里山を適切に管理する」に「バイオ炭の生産・活用について検討します。」を追加いたしました。</p> <p>1点目のご意見同様に、再エネのゾーニングについて今後研究してまいります。</p> <p>・農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理は、水源の涵養、自然環境の保全等、農業が有する多面的機能の発揮につながり、ひいては生物多様性の保全にも資する取組であることから、地域の農業者を中心として組織された23の地域資源保全組織に対して、農地維持・資源向上対策交付金を交付しているところではあります。</p> <p>また、令和6年度からは有機農業の取組を本格化させることで、環境負荷低減等に取り組むとともに、異常気象が頻発している状況にあることから、「基本目標4の施策方針 森林・里山を適切に管理する」に「有機農業の取組を実施します。」の記載を追加するとともに、田んぼダムの取組についても調査・検討してまいります。</p>
3	<p>【運輸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EVなどの次世代自動車の普及等(諸外国ではEVよりPHV・HVBまたは水素エネルギー利用にシフトしている。電気エネルギーが環境に負荷が多すぎるから) ・公用車はPHVにかえる必要がある、電気スタンドは諸外国も含め国内では数パーセントに過ぎず、むしろ地球温暖化に悪影響を与えています。 ・PHVや水素エネルギー利用の方向が望ましい。 	<p>本市におきましてもEVをはじめとする次世代自動車の普及推進が求められており、(本編p74)公用車においては最近では主にEV・HVへの転換を徐々に進めているところではあります。</p>
4	<p>【廃棄物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの排出量は依然高止まりしている。対策をしっかりと推進して再利用できるものはできるように。 ・生ごみ処理容器の補助事業の増額となお一層の推進を(ごみ処理容器の価格が高騰変動している) ・バイオマスプラスチックの利用促進を図ること。 	<p>本市に來ましては市単独でプラスチック容器用包装を分別回収しているほか、霞台クリーンセンターへ自己搬入された草木類も資源化されております。今後も既に実施している生ごみ処理容器購入補助事業の啓発をはじめ、新たな資源ごみの品目追加など資源の有効利用を検討してまいります。さらに、植物等の再生可能な有機資源を原料とするバイオマスプラスチック製品の利用についても推進してまいりたいと思います。(本編p64)</p>